

留学タイプ・国別費用

留学先：アメリカ

期間：9か月

プログラム：在籍大学の交換留学プログラムを利用して、単位を取得

●留学費用 (340万円)

生活費…250万円

学費…15万円

(交換留学だったので、基本的には学費はかからず、施設利用費のみ)



Tさん H30 (大)

留学先：ドイツ

期間：1年

プログラム：在籍大学の交換留学プログラムを利用

●留学費用 (約140万円)

生活費…約2350ユーロ (約305,500円)

学費…725ユーロ (約94,250円)

※1ユーロ=130円で計算

※生活費・学費の他、交際費、旅行費、往復航空券代、保険料などもかかっています



Kさん H30 (大)

留学先：シンガポール

期間：1年(2セメスター)

プログラム：所属大学の協定校の中で学内選考に応募

●留学費用 (約150万円)

生活費…約150万円 (寮費・交際費・渡航費等含む)

学費…交換留学なので日本の大学の学費のみ。(私の留学した大学だと正規留学では2セメスター約68万円かかります) シンガポールは他の東南アジアの国々に比べて感染の危険性はほとんどありませんが、予防接種の費用が高いです。念のため日本での接種をお勧めします。



Aさん H28 (大)

留学先：カナダ

期間：1年

プログラム：在学高校の留学プログラムを利用

●留学費用 (約250万円)

生活費…約175万

(ホームステイ代・サマーキャンプ代・渡航費等含む)

学費…約75万円

留学先の国の物価によると思いますが、私の場合はお小遣いとして月15,000円ほど使っていました。



Mさん H28 (高)

教えて!センプイ

留学体験談

「アメリカの学業都市で幅広い知識を得る」

★先輩体験談：高桑 孝太郎さん

留学先：アメリカ マサチューセッツ大学ボストン校 9か月 H30 (大)

●留学費用 (おおよそ)

総額：340万円

生活費：250万円

学費：15万円



マサチューセッツ大学ボストン校

●留学先を決めた理由

小学校四年生のときに通っていたインターナショナル・スクールのおかげで英語が好きになり、自分自身の得意科目にもなりました。だから、大学に進学したときから、海外に留学することにとても興味がありました。目的は、英語力上達と異文化交流です。アメリカを選んだ理由は私の専攻がアメリカ研究で、主にアメリカの奴隷制度や移民政策の歴史を勉強していたからです。また、ボストンはアメリカの中でも学業都市で、様々な人種の人々がいて、幅広い知識を得ることができると思い、選びました。

●良かったところと苦労したところ

毎年春に行われる、ボストン日本祭りに、運営側として参加できたことです。ボストンでは毎年たくさんの日本食レストランや日本のお土産屋さんが集まり、現地の人々に日本文化を紹介するお祭りがあります。なかでも有名なラーメン屋さんの手伝いとして、会計をしたり、客引きなどをしたりしました。日本を好きな人がたくさんいることに、とても感銘を受けました。一番苦労したことは、1学期の授業でした。授業中英語は聞き取れることができても、いざ話すとなると文法があやふやだったり、伝えたいことがうまく伝えられなかったりするときがありました。また、私だけグループの輪から外されてしまう事もありました。しかし、少数の友達は私の拙い英語でも耳を傾けてくれる人がいたので、その人と話していくなかで、自分自身の英語にも少しずつ修正を入れることができました。



ボストンで毎年9月下旬に行われているソフトボール大会での写真

「高校と大学で2回ドイツへ留学！」

★先輩体験談：上野 梓さん

留学先：ドイツ ミュンスター大学 1年間 H28 (大)

●留学費用 (おおよそ)

約140万円 (学費：約10万円 生活費：約130万円)

JASSOの奨学金を毎月8万円受けていたので生活費はそれで賄えました。家賃はシェアハウスで毎月3万円くらい。また、ドイツはとても学費が安く、かつ学費の中にゼミスターチケット代 (一定の地区のバス・電車乗り放題) も含まれているので移動費がほぼかからないことも非常にありがたかったです。

●留学先を決めた理由

高校の時にドイツに11か月交換留学をしました。それがきっかけで大学へ進学し再びドイツへ留学したいと考え、大学ではドイツ語学科に入学しました。留学先の学校選びは所属大学の協定先の中から以前留学した地域にある大学を選択しました。語学の習得だけでなく、日本の所属大学では専攻出来ない心理学を留学中に学ぶことも留学の目的でした。



高校生の時のホストファミリーと

●良かったところと苦労したところ

やはり留学では、言語の壁だけではなく、慣れない環境にも苦労しました。特に高校の時に初めてドイツへ留学した時は、何軒かお世話になったホストファミリーの中でも、1番初めのホストファミリーとは衝突した時期がありました。それでも、前向きによく話し合うことや気持ちを伝えることで今ではどの家族よりも連絡を取り合い、大学留学の際にも一緒に旅行に出かけるような、私にとっては第2の家族となっています。

大学留学では、ドイツ語と英語の2言語の習得に苦戦しました。授業の際に毎回英語のテキストを大量に読み込んでいく必要があったり、ルームメイトとの会話は英語が多かったからです。そんな時、留学先の大学が紹介してくれた「タンデム」というシステムがとても役に立ちました。このシステムはドイツ語と日本語を相互に学びたいもの同士を引き合わせてくれ、語学を学びあえるシステムです。留学で語学の壁は必ず立ちはだかります。ただ、留学を実際経験してみると言語は現地でこそ修得出来るものだと感じました。



大学留学のミュンスターの街並み